

〔 所 報 〕

1. 事務局人事の異動について

10月より事務局の任務分担に下記の変更があった。宮田三郎（常任）が会計および常任を退き、森田桐郎が会計を担当、望月清司が常任事務局員として新たに加わり、年報の編集および編集企画を担当することになった。

2. 実態調査計画の決定

本年度より労働問題研究グループ（代表大友福夫）による次の実態調査を開始することになった。この調査は建設業を中心とする戦後労働市場の底辺構造に照明をあたえようとするもので、調査期間は本年度より向う3カ年である（本年度予算8万円）。

「日雇労働市場の研究 — とくに公共事業就労者の実態を中心に — 」

（調査班の編成）

(1) 日雇労働市場の実態

大友福夫，西岡幸泰，栗木安延，佐々木享，加藤佑治，坂牧三郎

(2) 生活保護受給者の実態

西岡幸泰

(3) 職安機構の実態と機能

佐々木享，加藤佑治

(4) 日雇労働者の組織化の状況

栗木安延，加藤佑治，坂牧三郎

3. 特定研究「日本の近代化」の報告

前回の報告（月報1641所報）以降の特定研究の進行状況をここでまとめて報告する。

イ) 研 究 会

第4回研究会（2月28日）

宮田三郎「戦後における行政法の展開」

佐々木金三「『現代法と経済』をめぐって」

第5回研究会

宮坂 宏「清末の法典編纂と日本人法学者 — 刑法草案と岡田朝太郎 — 」

佐々木享「学卒労働力と技術労働力 — いわゆる後期中等教育改革の背景 — 」

第6回研究会（5月21日，22日第2回合宿研究会）

殿村晋一「『近代化』研究をめぐって」

長 幸男「アメリカにおける『近代化』研究について — C. E. Blackを中心に—」

シンポジウム「『近代化』とはなにか」

(問題提起者：中村秀一郎，福島新吾，隅野隆徳，石渡貞雄，玉垣良典)

全国合同研究会（6月18日，於東大）

本研究所から小林義雄所長が「日本帝国主義と対中国投資」のテーマで報告した。

ロ) 研究費の交付

第二年度の研究費200万円が10月6日文部省より交付された。

ハ) 実態調査および工場見学

長野県製糸業の実態調査および関西地方の鉄鋼業・紡績業の工場見学および実態調査をおこない，多数の所員が参加した。

ニ) 研究会の計画

今秋以降の研究会として以下のものが予定されている。

第7回研究会（11月18日（土））

打田峻一「日露戦争前後の民事立法」

第8回研究会（12月中，合宿研究会の形で交渉中）

内田義彦著『日本資本主義の思想像』（10月末岩波書店刊行予定）をめぐって

以下，来年1月以降の計画として小島昭（題未定），森田桐郎（戦後の帝国主義）などが予定されている。

4. 「年報」第2号の刊行について

「年報」第2号の刊行は当初の予定より若干おくられているが，このほど未来社との間に研究所年報発行に関する長期出版契約がととのい，11月中に新装順の下に同社より刊行される運びとなった。第2号の主要内容は以下の通り。

<論文>

独占資本主義における価値と価格 高橋七五三

マルクスのケネー把握についての一考察 宮下誠一郎

<実態調査報告>

戦後日本鉄鋼業の労働力再編 栗木安延

<翻訳>

現代循環のメカニズムについて エス・メンシュフ 玉垣良典訳・解説

<書評>

- 石渡貞雄『現代資本論Ⅰ』 正村公宏
シリル・E・ブラック『比較近代化の視角からみたロシア史』 長 幸男
潮見俊隆編『現代の法律家』によせて 打田駿一
小川・蓼沼編『現代法と労働』 近藤享一
雄川・高柳編『現代の行政』 宮田三郎

<学界展望>

第一回日ソ経済学シンポジウムに参加して 森田桐郎

<研究業績>

前号以後の所員の研究業績は次のとおりです。

〔論文〕

- 内田義彦『資本論と現代』（『世界』1967年9月号）
宮崎犀一『自由帝国主義』（『思想』1967年5月号）
同 『A・ゴルツ—変革欲求の組織化』（『思想』1967年7月号）
中村秀一郎『中堅企業のユニークな輸出戦略』（『実業の日本』1967年7月10日臨時増刊号）
同 『日本経済の課題（7）中小企業』（『ダイヤモンド』1967年6月26日号）
同 『能力主義と民主主義』（『労働問題』1967年8月号）
同 『小売商業構造変化と食品流通』（『全購連』1967年7月号）
玉垣良典『最近の景気再上昇の性格—戦後景気循環の視角から分析する—』（『エコノミスト』経済白書特集号1967年8月1日号）
加藤佑治『「労働力流動化」政策とその背景』（黒川俊雄氏と共同執筆）（『労働・農民運動』1967年9月号）
加藤幸三郎『企業合同か、競争か—近代日本の争点（68）』（『エコノミスト』1967年10月3日号）

◇ 月例研究会のお知らせ ◇

と き： 11月28日(火) 午後2時より

シンポジウム： 石渡貞雄著『現代資本論』をめぐって —

(問題提起者)

「現代資本論」と弁証法	佐藤 博
「現代資本論」における資本論理解の問題点	吉沢 芳樹
現代資本主義とマルクス蓄積論	玉垣 良典
「現代資本論」のメリット	正村 公宏

< 編 集 後 記 >

ことのほか酷しかった暑気が去ったと思っているうちに、秋気が身に滲る时候になっています。これからはしばらく研究活動にもっとも快適な季節です。陸続と研究成果を寄せられ、月報の誌面をかざって下さることを期待しています。

本号には、玉城 哲氏と佐藤 博氏の御論稿を頂戴することができた。玉城氏は、日本農業の問題を、小農民的農業経営をその特質として把握され、発達した資本主義社会において農民的の小生産が存続する事態の論理的説明を試みられ、水稲作における特殊な土地利用形態からアジア的特質をもつ用水配分秩序=村落の問題にも触れられるところがある。議論のあるところかと思う。また、佐藤氏は、現代の資本主義経済社会の諸相の分析に、マルクス主義経済学が有効性をもちうるかということを検討しなおされようとする石渡貞雄氏の労作に対し、主としてその弁証法適用の問題からの批判を加えられた。月報が研究員の批評と反批評の場となり、より一層の研究の深化に役立つ機会となることを願っている。

編集担当をしてから半年、まだまだ技術的に未熟で欠陥の多いことと思うが、御叱正をいただければ有難い。

(事務局：宮坂・宮下記)

東京都千代田区神田神保町3の8

専修大学社会科学研究所 電話(265)6211~20〔内線53〕

(発行者) 小林 義雄